



皆さんの情報をお寄せください  
38-3111(内線53)

### 広報クイズ

今年は5年に1回の国勢調査が行われました。この調査は10月1日現在でその町に実際に住んでいる全ての人を対象とする統計調査です。

そこで…国勢調査の結果、小須戸町の人口は何人だったでしょう？

ヒント 5年前の国勢調査では、10173人でした。  
(その時の住民登録人口は10,401人) 現在の ” ” 10,615人

当選者には抽選で3名の方に記念品を進呈。

#### ★応募方法

裏	表
クイズの答え ① ② ③ 住所 氏名 電話番号 町に対するご意見 ご希望等	956-01 小須戸町大字小須戸 役場総務課 企画財政係 行 120

★締め切り 11月15日(消印有効)

10月のクイズの答え

- ① 50年目 ② 497人 ③ 100才

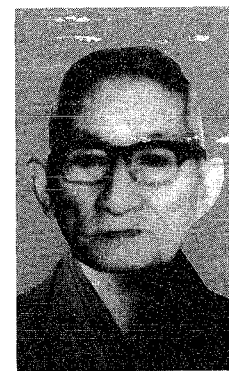
- 当選者 ●佐藤 ムツさん(新栄町1)  
●新井田 烈也さん(矢代田1)  
●楠原 里恵さん(竜玄)

### 11月9日は、119番の日

11月9日は、『119番』の日です。火災・救急で通報するときは、次の要領をお願いします。

- 火災(事故)発生場所 小須戸町〇〇〇(住所)
- 目標は〇〇〇です。
- 名前と電話番号
- 現在の状態

火災なのか救急なのかハッキリと！ 以上のことを、あわてず正確にお知らせください。  
(白根地区消防署)



**勲六等瑞宝章受賞 故荒木春一氏(新町二)**  
故荒木春一氏(八十歳)が平成七年九月二十三日、勲六等瑞宝章を受章されました。  
荒木氏は、昭和三十年から昭和四十二年までの十二年間にわたり、町議会議員をつとめられ、小須戸町の発展に大きく貢献され、地方自治の進展に寄与された功績で受賞されたものです。

### 秋季全国 11月9日～15日 火災予防運動

#### 『災害に備えて日頃の火の用心』

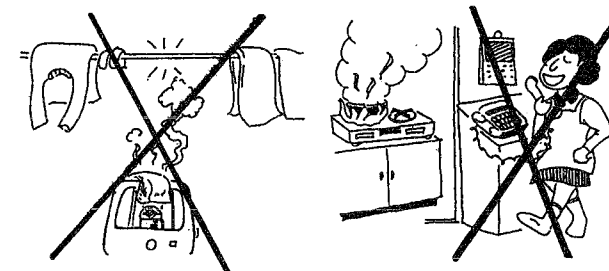
★火の用心!! 7つのポイント

1. 寝たばこや、たばこの投げ捨てをしない。
2. 子供には、マッチやライターで遊ばせない。
3. 風の強いときは、たき火等しない。
4. 天ぷらを揚げるときは、その場を離れない。
5. 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
6. ふろの空だきをしない。
7. ストープには、燃えやすいものを近づけない。

寝る前、お出かけ前に必ず、家族みんなで火の元をお確かめください。

※火災等の問い合わせには、消防署テレホンサービスをご利用ください。

☎025-373-3400 白根地区消防署



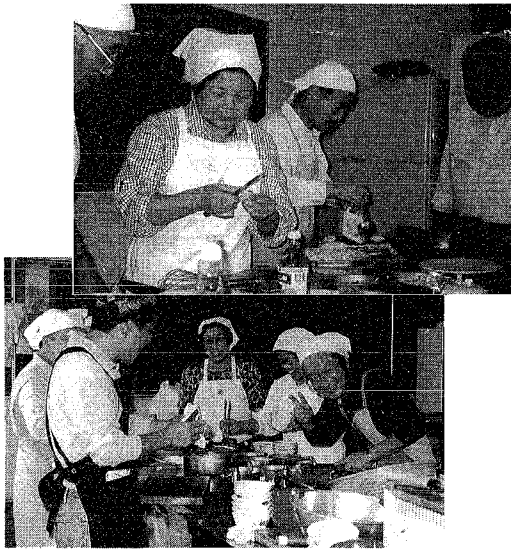
### やればできます

— 男の料理教室 —

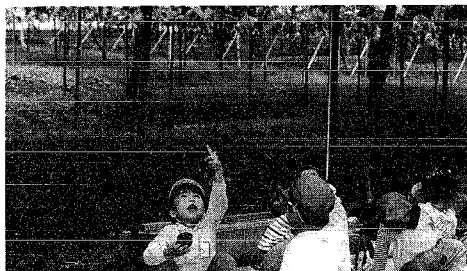
大好評!!

小須戸町食生活改善推進委員協議会で、日頃料理を作る機会の少ない男性を対象に料理講習会を開きました。身近な材料でワイワイと賑やかな雰囲気の中で、あつという間に出来上がり。「もつと初歩的なことを教えてほしい」「井物や肉料理、魚のさばき方も教わりたい」「次回はいつごろ」など、早くも次回を待つ声ありで、試食しながらの楽しい会話がはずみ、自らが腕もまんざらではないぞと、自信満々の顔、顔、顔です。

私達食推も、みなさんの満足気な顔を見ながら、初心に返り「今、何が必要とされているか」をしっかりと見極めて、これからの活動をしていかなければと思いました。



### ほら、ぶどうだよ



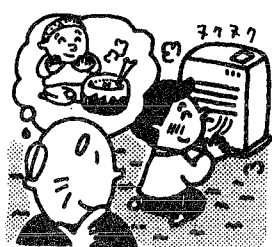
小須戸幼稚園の4才児達が矢代田の高山ぶどう園へ遠足に行きました。今年のぶどうはちよつと実りが遅いということでしたが、甘い香りのたよう中、園児達は、おいしいぶどうとお弁当をほおばっていました。

### 親のための思春期セミナー開催



今年度最後のセミナーが、保健福祉課主催・小須戸中学校PTA共催で、九月二十二日に中央公民館で開催されました。夜間にもかかわらず、50余人の参加があり、ユーモアたっぷりの中にも、現代の子供達の実態や、親としての在り方など、示唆に富んだ講演に耳を傾けていました。

「親のための思春期セミナー」は、今後も継続します。皆様からのご意見・ご要望を保健福祉課保健婦までお寄せください。



な火鉢は、日本の生活様式にあった重宝なものでした。しかし、現在では火鉢より便利な暖房機器が発達したこと、家屋の洋風化が進み、木炭の酸化炭素中毒の心配などもあって、火鉢は徐々にその姿を消していきました。

火鉢は陶製や金属製などのほかに、木製の塗り火鉢や絵火鉢、木の根を生かした工芸的なものもあります。このため最近では、工芸品として珍重されているものもあります。

毎年十一月は、「伝統的工芸品月間」です。ライフスタイルの変化のなかで、失われつつある伝統工芸産業を振興しようというものです。これを機に、身近な伝統工芸を見直したいものです。



かざす手の珠美しや  
塗り火鉢 杉田久女

美しい指輪をはめた手と、塗り火鉢との醸し出す風情が目には浮かびます。また、あかぎれや霜焼けの手を火鉢にかざすのも、いまとなつては昔懐かしい風情です。

いまでも、火鉢は簡単に手に入るでしょうか。東京のデパートに問い合わせたところ、三つ目の店でやっと「お取り寄せでよろしければ」との返事をもりました。陶器の丸型が一、二あるだけで、取り寄せるにも約一週間かかることとです。取り扱いは、なんと園芸用品売場でした。もつとも、工芸家具や和家具専門店には、いまでも火鉢はあります。

まきを燃やす囲炉裏と違って炎も煙もなく、しかも灰を使うことで火力の調節も簡単